

令和3年度 能見台地域ケアプラザPDCAシート_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

能見台地域ケアプラザの担当圏域は、富岡西・能見台、能見台、金沢東部、金沢中部の4地区にまたがっており、それぞれ特徴的な地域活動が行われているエリアである。各地区の特性に応じて活動者、団体を支援し、情報交換を行い相互につなぐ役割をケアプラザが担っている。今後も身近な地域で住民の活動立ち上げ、継続を支援し、その情報を広く地域に提供していく。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域住民主体の活動が維持、継続できるよう運営の支援を行っていきと共に、元気づくりステーション未整備の地域に対しては、立ち上げの支援を引き続き行う。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	個別ケースの課題から地域課題を抽出し、地域ケア会議や地域支えあい連絡会などを通じて専門職や関係機関、地域住民への周知を図り、課題解決につなげていく。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	誰もが住み慣れた地域で安心して過ごせるよう、エンディングノートの他、救急情報提供用紙、救急あんしんカードの普及・啓発に努める。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域の集いの場や話し合いの場に積極的に参加し地域の社会資源情報を収集すると共に、活動における課題を把握し、活動の発展・継続に向けて働きかけ、地域支援・個別支援につなげていく。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	様々な連絡会など、地域の方の声に常に耳を傾け五職種間での連携をとり課題ニーズを把握し、地域のすべての方が孤立することなく参加できる事業を企画実施する。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

令和2年度に続き今年度も新型コロナ対策によりケアプラザの活動は制約を受けた。緊急事態宣言発令中においても包括の相談・訪問は継続し、相談・訪問とも前年度より件数は増えている。緊急事態宣言が解除された10月以降、感染予防の取り組みを継続しつつも利用者、職員のワクチン接種がすすむなか、ケアプラザの自主事業も徐々に再開することができた。三密を避け外出を控える傾向が続いたため、ADLが低下し、人との接触・会話が減り、プレフレイルないしフレイル状態の高齢者が増えるなか、体操教室やウォーキング講座、健康講話などを積極的に実施した。特に、「コロナ禍での社会参加・介護予防」をテーマに坂道の多い片吹団地地区を対象にした地域ケア会議を開催し、併せてウォーキング講座を実施した。引き続き包括と生活支援・地域活動交流の両コーディネーターの連携を図りつつ、ケアプラザ全体として個別支援・地域支援を進めていく。

区からのコメント

昨年度に引き続き、地域活動の支援やケアプラザ事業が難しい1年だったかと思います。
 そんな中でも、継続して地域支援に積極的に取り組んでいただいております。地域ニーズ把握と住民の要望から「健康講座・食育講座」の開催を実現させています。また、地域課題に対しても、地域主体の話し合いに参加するとともに、客観的な地域情報を提供することで、より具体的な活動検討を支援していただいております。ケアプラザでの感染防止対策にも取り組んでいただき、安心して活動ができるケアプラザの場が提供されています。
 相談業務においては相談件数が増加するなか、個別ケースやケアマネジャー支援を通して地区全体の課題を捉え、エリア全体課題を解決するための予防的な事業を企画、実施していただいております。
 コロナ禍の収束が見えないなか、新しい生活様式にあった地域活動の支援や、課題を抱える世帯の増加、複雑化などが予想されるため、ケアプラザが一体となって地域に寄り添った事業の展開や関係機関との連携強化を継続していただきますようお願いいたします。